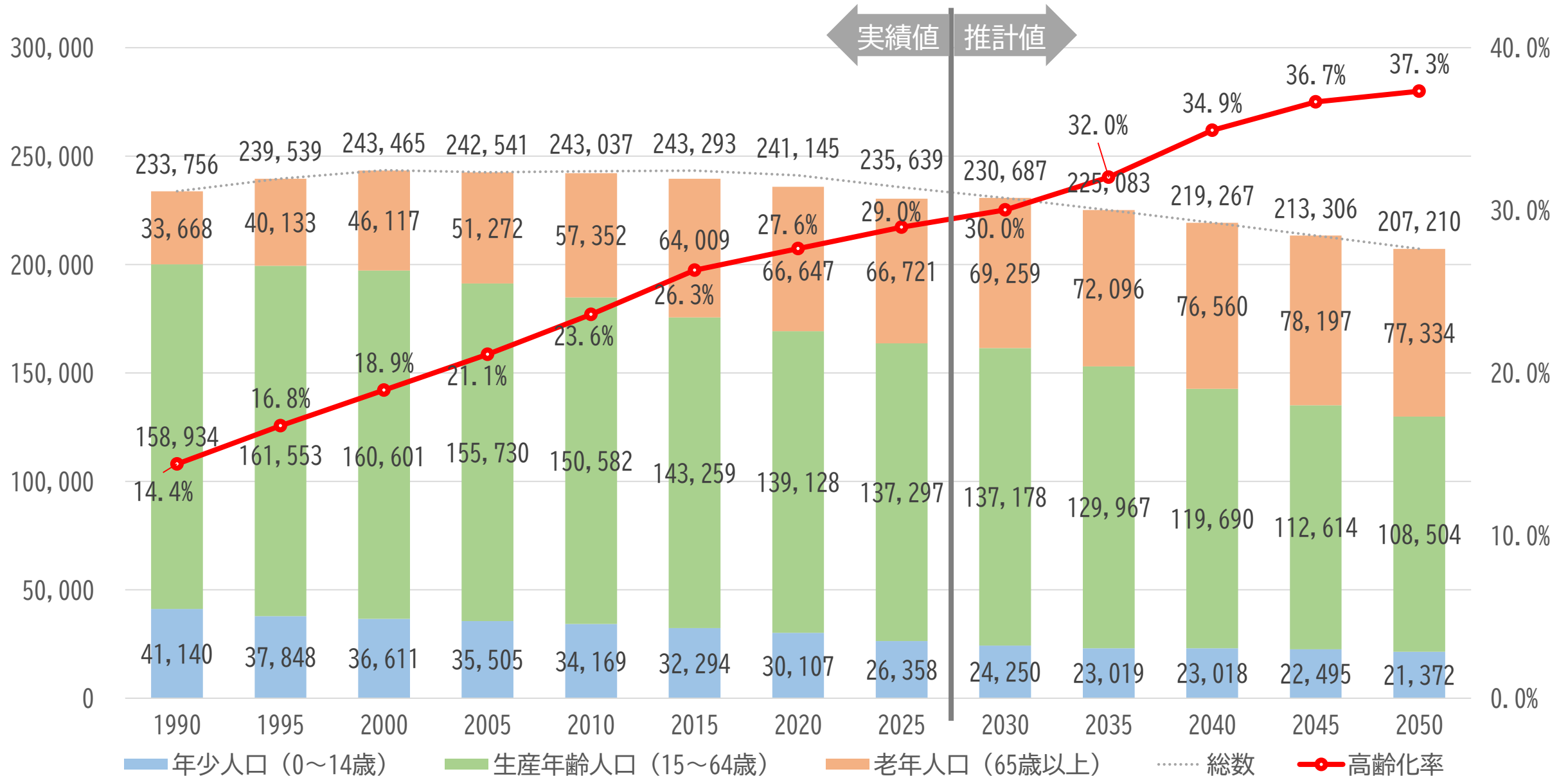


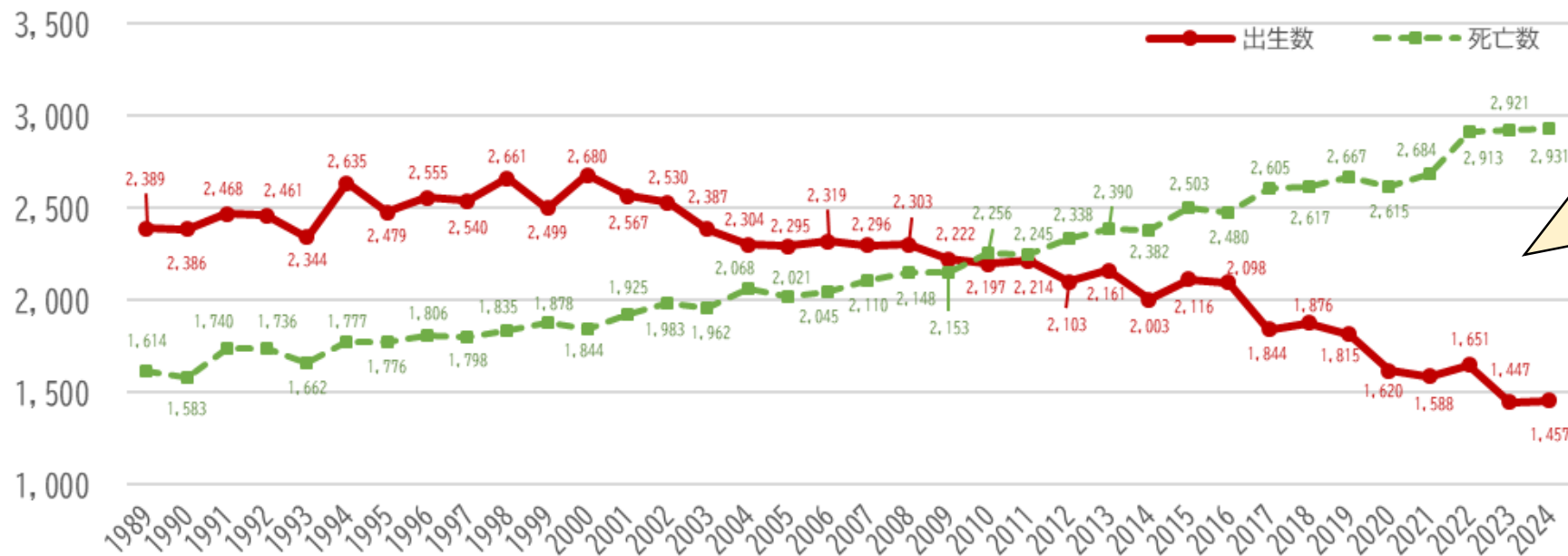
人口ビジョン(案)

松本市の人口推移



出典：令和2（2020）年まで総務省「国勢調査」、令和7（2025）年は長野県「毎月人口異動調査」（10月1日）、令和12（2030）年以降、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より作成
 ※ 総人口には年齢不詳を含むため、年齢3区分別人口の合計と一致しない。

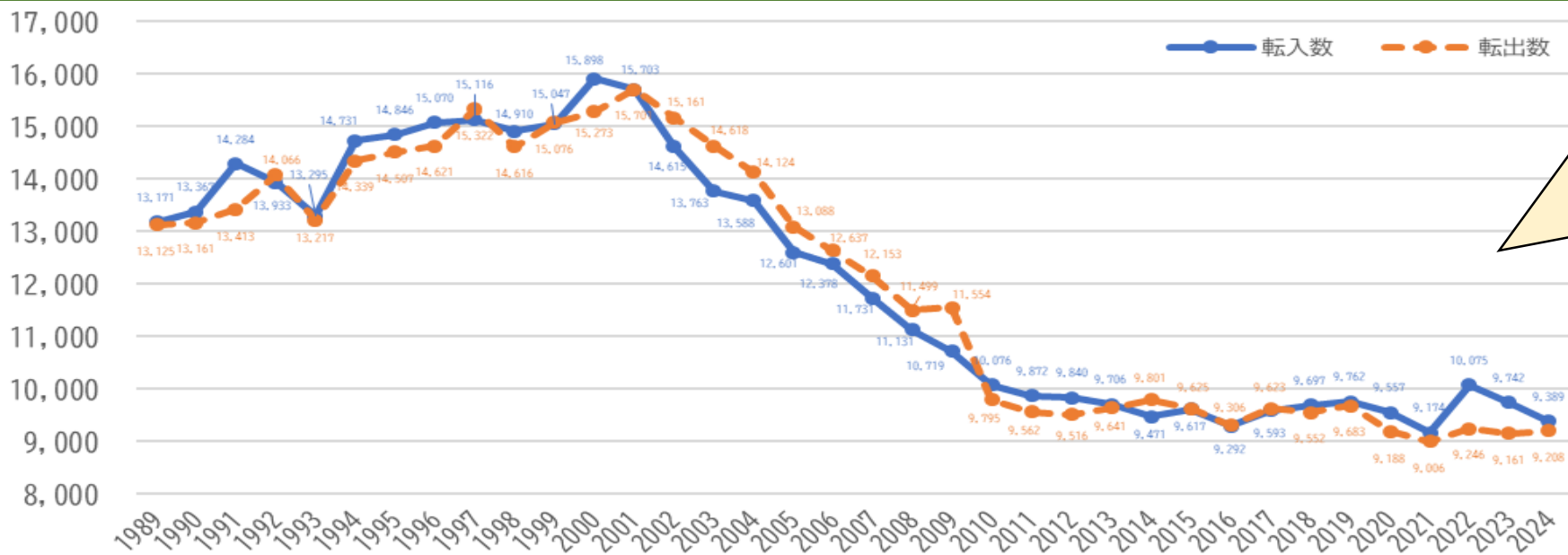
出生数・死亡数の推移（人）



平成22(2010)年
死亡数 > 出生数に
以降、**自然減幅は拡大**
➡人口減少の最大の要因

出典：長野県「毎月人口異動調査」

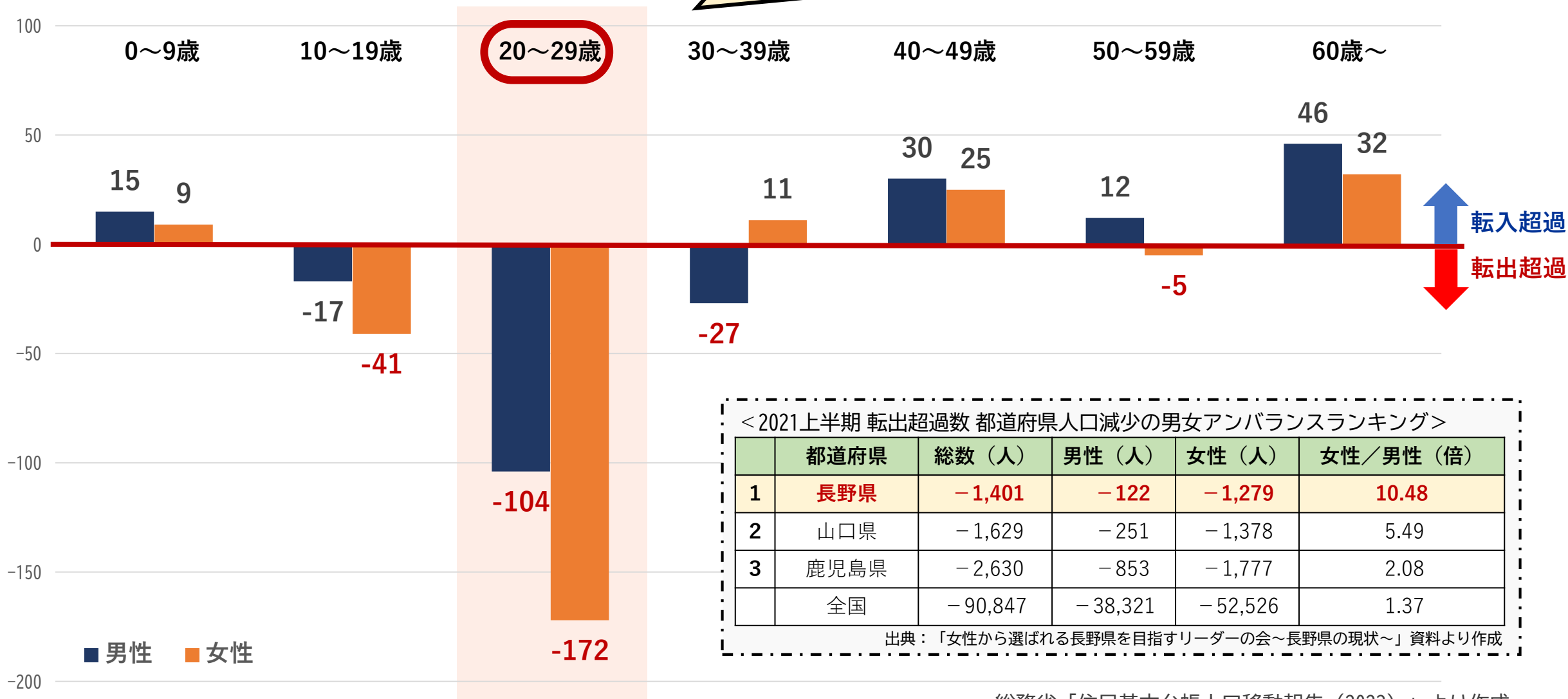
転入数・転出数の推移（人）



平成12(2000)年以降
転入数・転出数は急減
平成22(2010)年以降
9,000～10,000人台を推移し、
近年は**転入超過傾向**
➡人口減少を食い止める規模には
至らず

出典：長野県「毎月人口異動調査」

20代(特に女性)で東京圏への転出が多い傾向

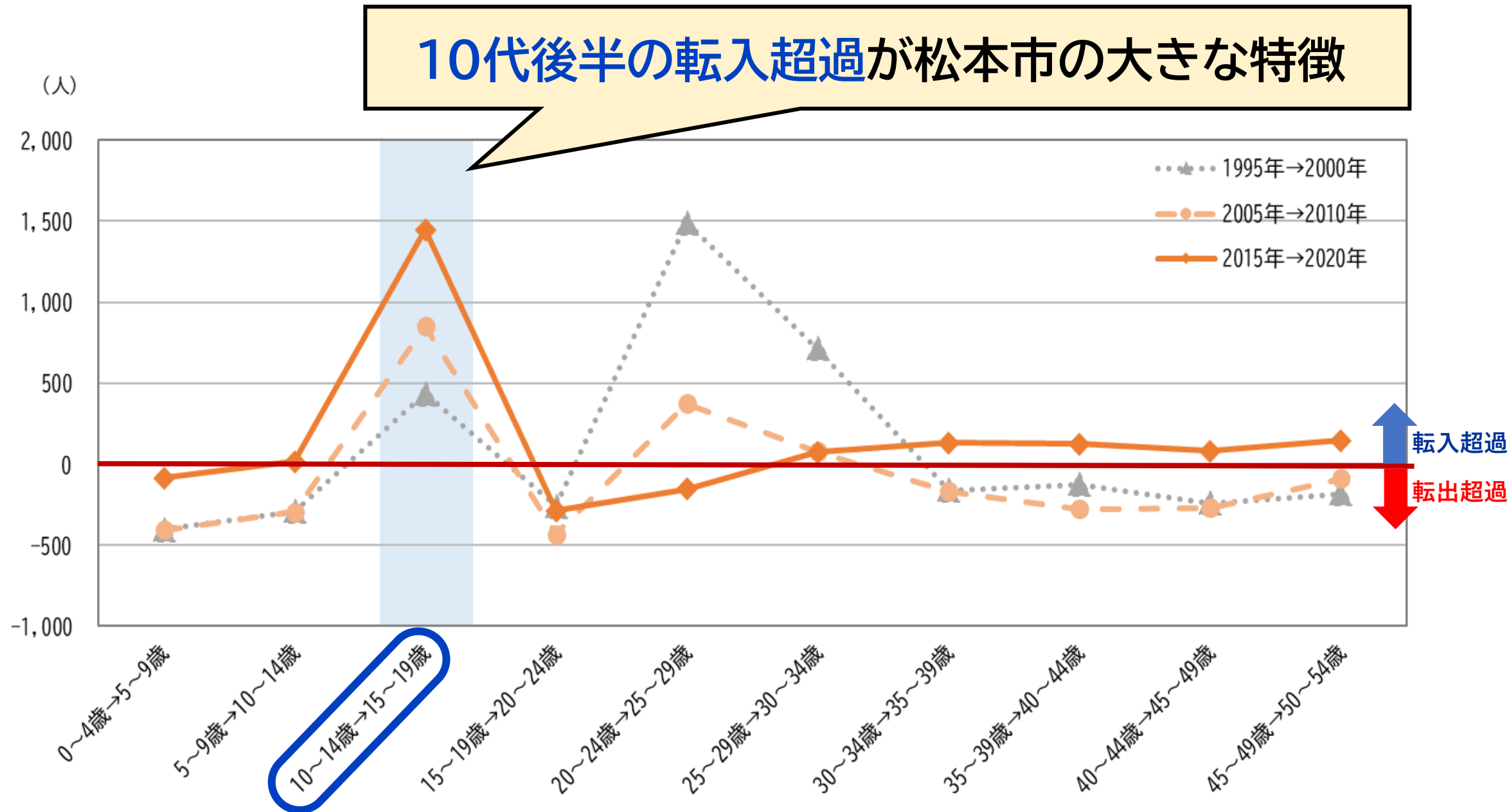


<2021上半期 転出超過数 都道府県人口減少の男女アンバランスランキング>

都道府県	総数 (人)	男性 (人)	女性 (人)	女性/男性 (倍)
1 長野県	-1,401	-122	-1,279	10.48
2 山口県	-1,629	-251	-1,378	5.49
3 鹿児島県	-2,630	-853	-1,777	2.08
全国	-90,847	-38,321	-52,526	1.37

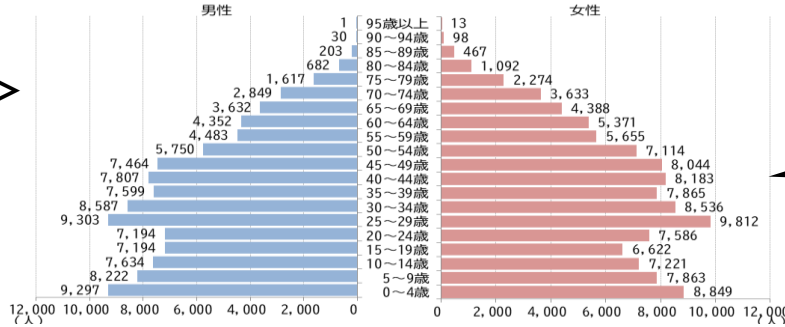
出典: 「女性から選ばれる長野県を目指すリーダーの会～長野県の現状～」資料より作成

松本市の特徴② 年代別 純移動率(松本市)



人口推計

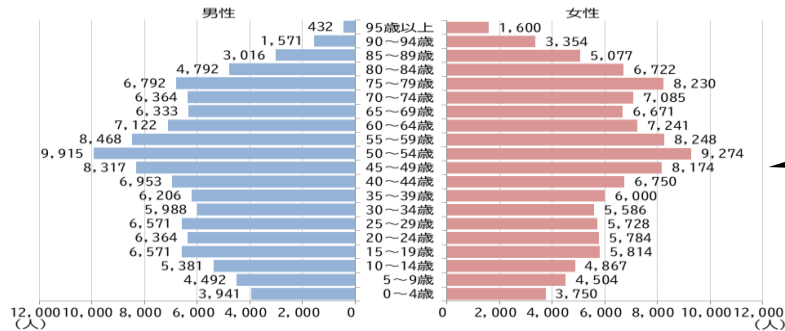
<昭和50(1975)年>



年少人口が多く、老年人口が少ない
「富士山型」の形状

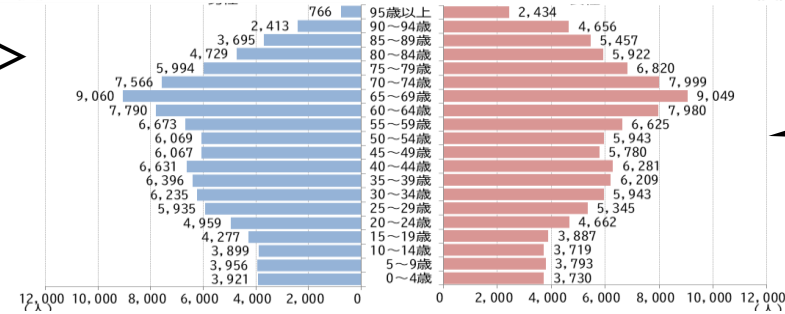
<令和7(2025)年>

- 現在 -



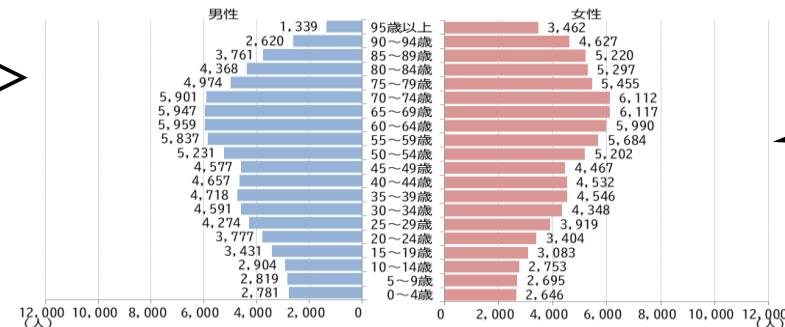
年少人口が少なくなり、団塊ジュニア世代
が最も多い「つぼ型」の形状

<令和22(2040)年>



年少人口は少ないまま、老年人口が最も多
い「逆三角形」の形状に

<令和52(2070)年>



年少人口がさらに少なくなり、全体的に
人口も減少した細い「逆三角形」の形状に

少子高齢化・人口減少が進行・・・社会保障費の増大に対する支え手不足、現役世代の負担増

最大の課題は人口バランスの不均衡

平準化された人口構造の実現が必要

【人口定常化の定義】

出産の希望実現と社会増を通じて、世代間のバランスがとれた状態

【人口減少社会における人口定常化の必要性】

1 過度な東京一極集中の是正

人口の過度な集中と偏在は、災害や感染症、資源管理など多様なリスクを高め、地域や国全体の持続可能性を損なう。

2 地方中枢都市としての自立モデルの構築

多様な資源に恵まれた松本市は、東京圏から離れた場所でも「豊かさと幸せを実感できる都市モデル」を実現できる。

3 「縮小に抗う」のではなく「安定をつくる」

若者が定着する安定した人口構造は、将来にわたる公共サービスの質の維持と、地域の持続力を確保する基盤となる。

人口定常化に向けた目標と共有する未来像

【目標設定の考え方】

- 1 将来人口の数値目標は固定せず「未来像」を共有
正確な将来予測が目的ではなく、市民と方向性を共に描くことを重視
- 2 人口の「安定」に重要な層に注目
「縮小に抗う」のではなく「安定をつくる」ことで多様な都市機能を維持
- 3 「早期」に取り組むことを重視
人口政策は効果が現れるまで時間を要し、今の取組みが将来に大きな差

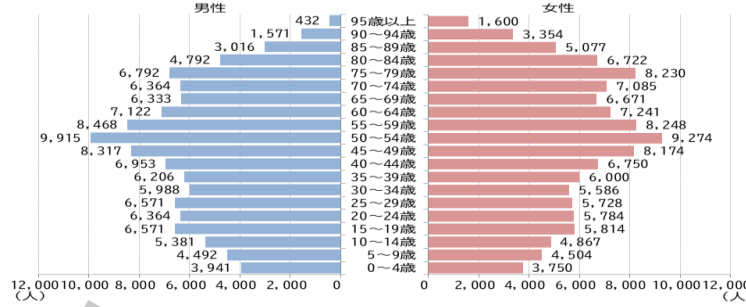
次世代を育む 基盤となる層	概要
15歳未満 【年少人口】	将来の担い手となり、 社会の再生産を担う基盤
15歳以上 65歳未満 【生産年齢人口】	働き手かつ消費者として経済を支え、 社会保障制度を維持する中心層
20歳以上 50歳未満 【子育て世代】	進学・就職・結婚等居住地の移動を伴う ライフイベントを通じて、 人口流動に大きく影響を与え 次世代を育む鍵となる層

【人口定常化に向けた目標】

2040年までに一定の規模と安定した人口構造を実現
特に65歳未満の人口を平準化し、持続可能な社会の基盤を確保

人口定常化に向けた目標と共有する未来像

<現在>



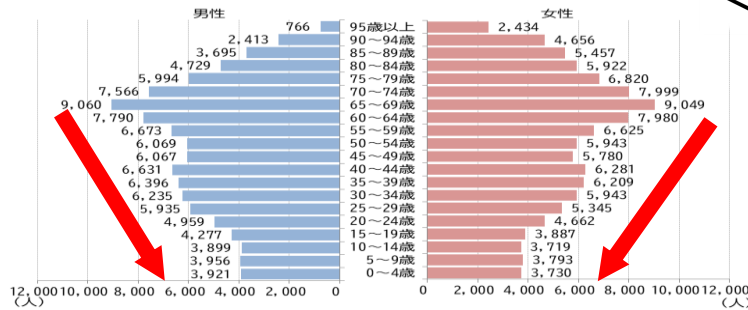
人口定常化を実現するための条件

- 合計特殊出生率 令和22(2040)年に1.80(以降継続)
- 社会増による人口増加率(社人研比)
15歳未満: +1.5%、15歳以上50歳未満: +3.0%

共有する未来像

推計

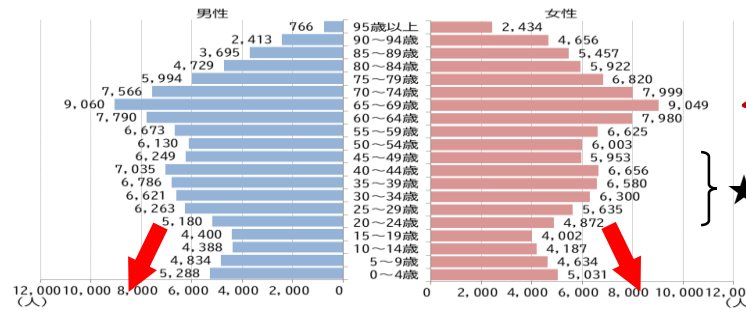
逆三角形が顕著に...



<2040年>

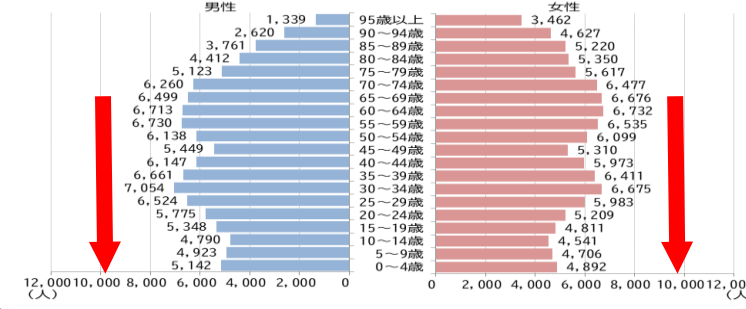
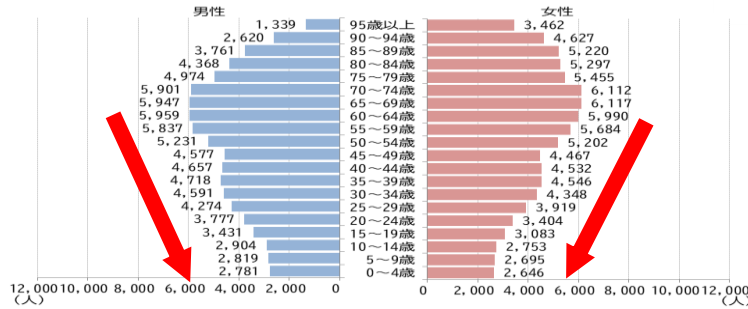
目標

つりがね型



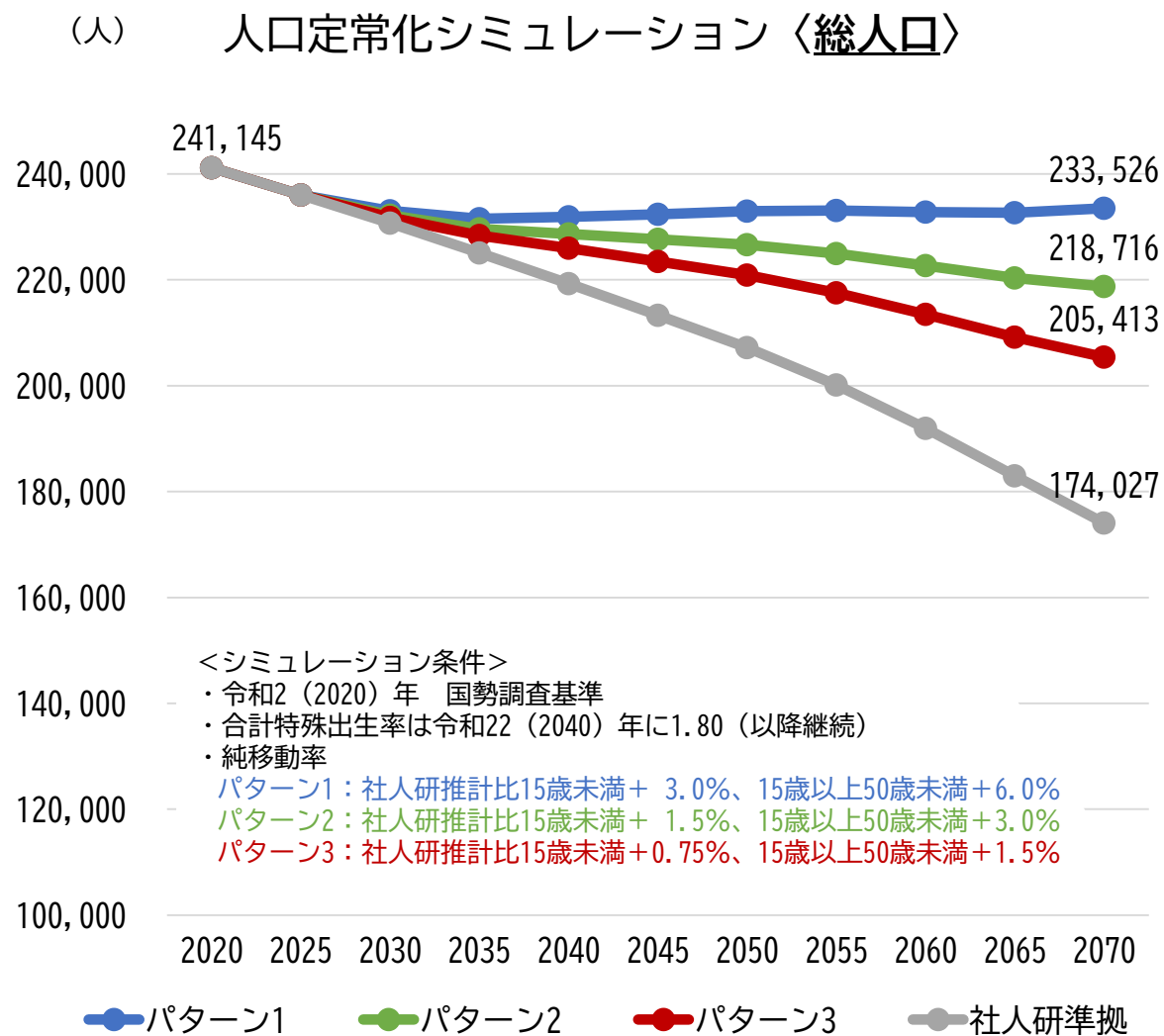
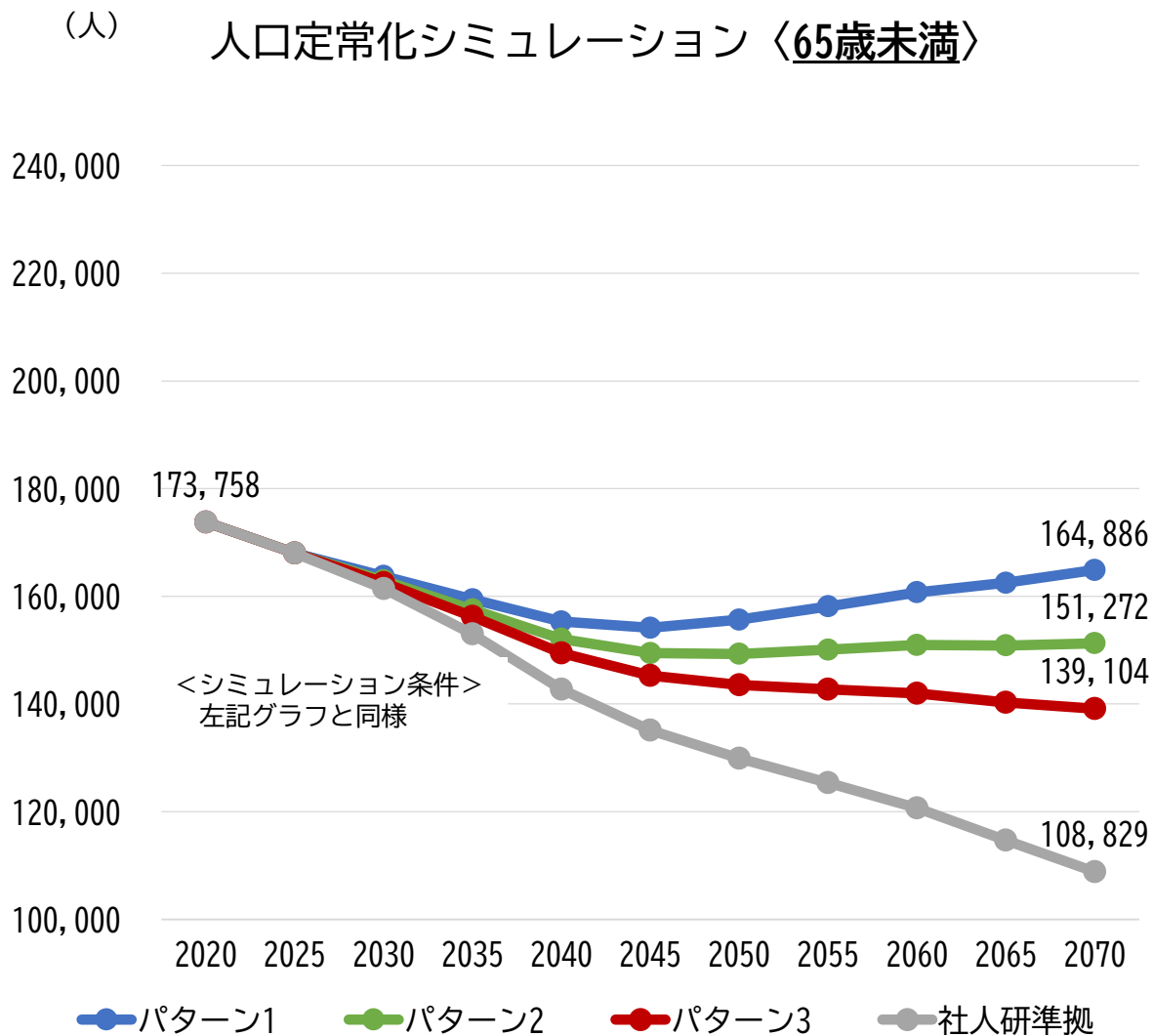
2040年は、団塊ジュニアの子ども世代(★)が子育て期の最終段階を迎える時期となる重要な分岐点

<2070年>



幅を持たせた人口イメージ

「政策努力によってどのような未来像が実現し得るか」を共有するため、2040年に人口定常化を実現した場合の幅を持たせた3つのシミュレーションパターンを提示



◆ 出産の希望実現に向けた支援の強化

- ・ 結婚の希望を叶える
- ・ 出産・子育ての希望を叶える

◆ 若者と女性の移住・定住促進

- ・ 若者に選ばれる環境づくり
- ・ 女性が活躍できる環境整備

◆ 多様性を尊重した社会環境づくり

- ・ 互いの個性や立場を認め合う
- ・ 外国人住民との共生

【関連施策】

- 1-1 結婚・出産・子育て支援の充実
- 1-2 質の高い保育・幼児教育の実現
- 3-4 若者・子育て世代の移住・定住促進
- 3-5 多様性と人権・平和の尊重
- 3-6 ジェンダー平等社会の実現
- 3-7 国際化・多文化共生の推進
- 6-3 多様な働き方と雇用環境の充実
- 6-5 地域特性を活かした新産業の創出